

地域・交通に関する法規制および事業化の研究

樋笠 亮士 多摩大学 経営情報学部 准教授

多摩大学教員サイト URL

https://www.tama.ac.jp/guide/teacher/hikasa_takashi.html

キーワード

AI、自動運転、交通、電動キックボード、ヒューマノイド、防犯、サイバー防犯

概要

【プロフィール】上智大学法学部法律学科卒業。中央大学大学院法学研究科博士後期課程終了、博士(法学)。ヴェルツブルク大学法学部ロボット法研究所外国研究員、法務省法務総合研究所委託研究員、名古屋大学未来社会創造機構モビリティ社会研究所特任助教を経て2021年より現職。ISO/TC241 専門委員会委員等を務め、ISO/TC241 WG6 では日本代表として活躍し、自動運転の倫理に関する国際指針 ISO39003 の策定に貢献。科学技術振興機構(JST)の「混在交通の占有・優先度についてのELSIの実践的整理と対応方策の創出」研究プロジェクトの代表や、内閣府ムーンショット目標3(ヒューマノイド)の研究課題推進者を務める。また、アメリカ国務省 IVLP(2025)や、英国王立工学アカデミー次世代AIリーダー(2026)、日仏先端科学シンポジウムメンバー(2026)などに選出されており、国際的な評価を得ている。

【研究概要】自動運転車、電動キックボード、配送ロボット、ヒューマノイドなどが人と共存する交通空間を対象に、倫理的・法的・社会的課題(ELSI)を研究しています。特に、歩行者や車両間の優先関係、責任分担、社会的受容性から協力行動への変化に着目し、自治体・企業と連携した実証調査やデータ分析なども可能で、国際比較を通じて、誰もが安全かつ公平に移動できる制度、運用ルール、サービスの設計を目指しています。各種補助金対応や社会的受容性調査やガイドライン提案などができます。

利用・用途

応用分野

・交通 ・まちづくり ・都市計画 ・海洋航行 ・宇宙 ・防犯

関連論文・著書

- ・『自動運転』(交通新聞社、2025年)
- ・『自動運転レベル4—どうしたら社会に受け入れられるか』(学芸出版社、2023年)
※第49回交通図書賞(技術部門)
- ・『刑法における故意と錯誤—行為計画説による見地から』(多摩大学出版会、2023年)

【保有資格】

- ・自動車技術会エンジニア(JSAE Engineer)
- ・知的財産管理技能士(3級)
- ・ビジネス法務エキスパート(東京商工会議所認定)
- ・認定コンプライアンス・アドバイザー

